

コロンビア議会選挙の結果

3月12日に開催されたコロンビア議会選挙の結果について、コロンビア・米国における翌日(13日)までの報道機関・専門家等の速報をベース通り纏めると下記の通り。

記

1. 選挙結果の概要

- 3月12日、コロンビアの議会選挙が実施され、即日開票の結果によると、ウリベ大統領を支持する政党の候補者が上院・下院共に過半数の議席を確保した。2002年8月の就任以来ウリベ大統領は国民の間で7割にも及ぶ高支持率を維持してきたが、今般の選挙での支持政党の議席増大により議会での支持基盤を強化したウリベ大統領が、本年5月28日の大統領選に勝利する可能性が一段と高まった。
- 本議会選挙では、上・下院の全議席(其々102、166議席)が対象となったが、現地時間13日早朝の選挙当局速報(開票率95%)によると、上院では全議席の約6割に当たる61議席をウリベ大統領支持の5党の候補者が占めた¹。下院においても同様に、大統領の支持政党が約6割を確保したと発表された。
- 議会選挙前の数週間は、ウリベ大統領に反対する左翼ゲリラが国内の地方各地でテロ行為を行い、20人以上の死者を出すなど治安が悪化したが、13日の投票日にはコロンビア全土の投票所に20万人の軍警備隊が配置されたこともあり、大きな混乱もなく²投票が行なわれた。コロンビア内務・法務大臣は、「過去24年で最も安全な選挙であった。」と評価した。但し、投票率は約40%に留まった。

¹ 開票速報によるとウリベ大統領支持政党の上院での議席数確保数は、Partido de La U党(20議席確保)、保守党(Conservative party)(同18議席)、Cambio Radical党(同15議席)となっている。野党自由党(Liberal Party)は、上院30議席獲得を目指していたが、17議席を得るに留まった。新議会上院の内訳は61%がウリベ大統領支持政党、27%が野党、12%が無所属となる見通し(速報ベース)。

² 投票日には首都ボゴタで3件のバス放火、北東のChoco地方では爆弾事件が一件確認されたが、負傷者等は出ていない模様。

2. 選挙の反応と今後の見通し

- 高支持率を背景に 2005 年 10 月、ウリベ大統領は大統領再選を可能にする憲法改正を行なっているが、本議会選挙で大統領支持政党の議席数が増加したことで、ウリベ大統領の本年 5 月の大統領選挙における再選の可能性が一層高まった。連続 2 期の大統領就任が実現すれば、コロンビアの近代史上初となる(コロンビアでは過去 1 世紀に亘り大統領の 2 期連続再選の前例はない)。
- ウリベ政権の続投が決まれば、同大統領によるコロンビア国内の麻薬対策、FARC への強硬姿勢の強化が期待される他、本年 2 月 27 日に交渉が妥結した米国との自由貿易協定(FTA)のコロンビア議会による批准、および税制、年金制度の見直しを含めた懸案の財政改革の継続的实施に繋がると見られており、米国の識者およびウォールストリートのアナリスト等は概して今回の議会選挙におけるウリベ支持各政党の圧勝を好意的に評価している。
- 米国での報道とは対照的に、コロンビア地元紙は今回の選挙に対しやや冷めた見方をしている。コロンビア各紙は、投票日の混乱が少なかったことに対する安堵を示しつつ、一部ではウリベ大統領の対抗馬となり得る実力者の不在による選挙の形骸化について不満を表す報道も見られた(El Espectador 紙、El Colombiano 紙等)。また、コロンビアのインフラ整備がボゴタ、メデジンを除いては他の諸外国に比し相当の遅れを取っており、新議会がこれらの諸問題に対応することを期待する、との野心的報道も見られた(La Republica 紙)。

以上